

3-2-2 今の生き方

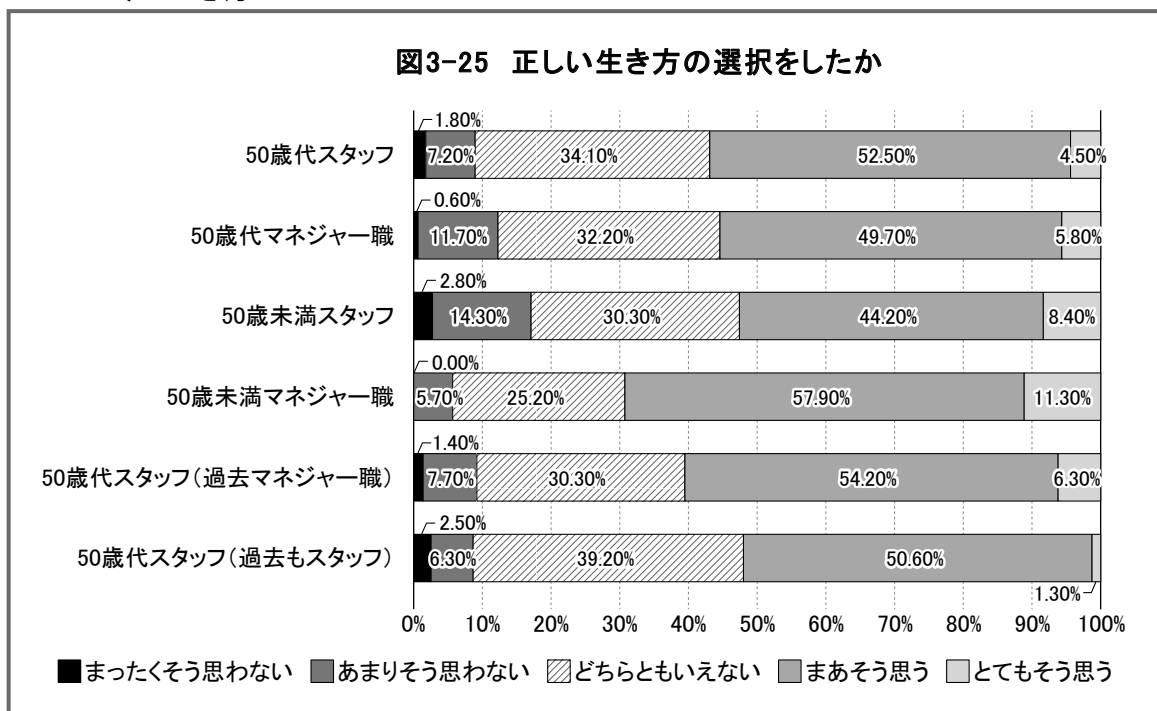


図3-25は「あなたご自身の生き方に関して正しい選択をしたと思いますか」(問21)に対する回答の分布である。この項目の「とてもそう思う」と「まあそう思う」を足し合わせた肯定的な回答の割合は、50歳代のスタッフが57%、マネジャー職が55.5%で、両者の間にほとんど差はなく、いずれも2人にひとり以上が正しい生き方を選択したと考えていることがわかる。ただし、「どちらともいえない」と回答した者がスタッフの34.1%、マネジャー職の32.2%で、「自分の生き方に関する選択」に明確な態度を示していない者が50歳代スタッフ・マネジャー職の3人にひとり程度の割合で存在している。

50歳代スタッフに関して、過去のマネジャー職の経験の有無によって肯定的回答の割合を比較してみると、過去マネジャー職に就いていた者の60.5%、過去もスタッフだった者の51.9%が正しい選択をしたと考えている。過去のマネジャー職の経験とは無関係に、50歳代の2人にひとり以上が自分の生き方を肯定的にとらえている。

50歳未満のスタッフとマネジャー職の回答傾向を見ると、50歳代とはやや異なる特徴が見られる。50歳未満の肯定的な回答の割合は、スタッフでは52.6%であるのに対して、マネジャー職では69.2%で両者の間に16.6%以上の差があり、50歳未満のマネジャー職では10人中約7人が自分の生き方の選択が正しいと考えている。50歳代のマネジャー職の肯定的回答が55.5%であることと対比すると、50歳未満のマネジャー職の肯定的回答の割合の方が13.7%高い。50歳未満のスタッフでも2人にひとり以上が自分は正しい生き方を選択したと考えているが、50歳未満のマネジャー職の肯定的回答の割合の高さは特徴的である。50歳未満のマネジャー職については、職場を居場所と考える傾向や、職場で必要とされていると考

える傾向がある点を合わせて考えると、生き方の正しさの捉え方には職場における役割のあり方が関係しているのかもしれない。

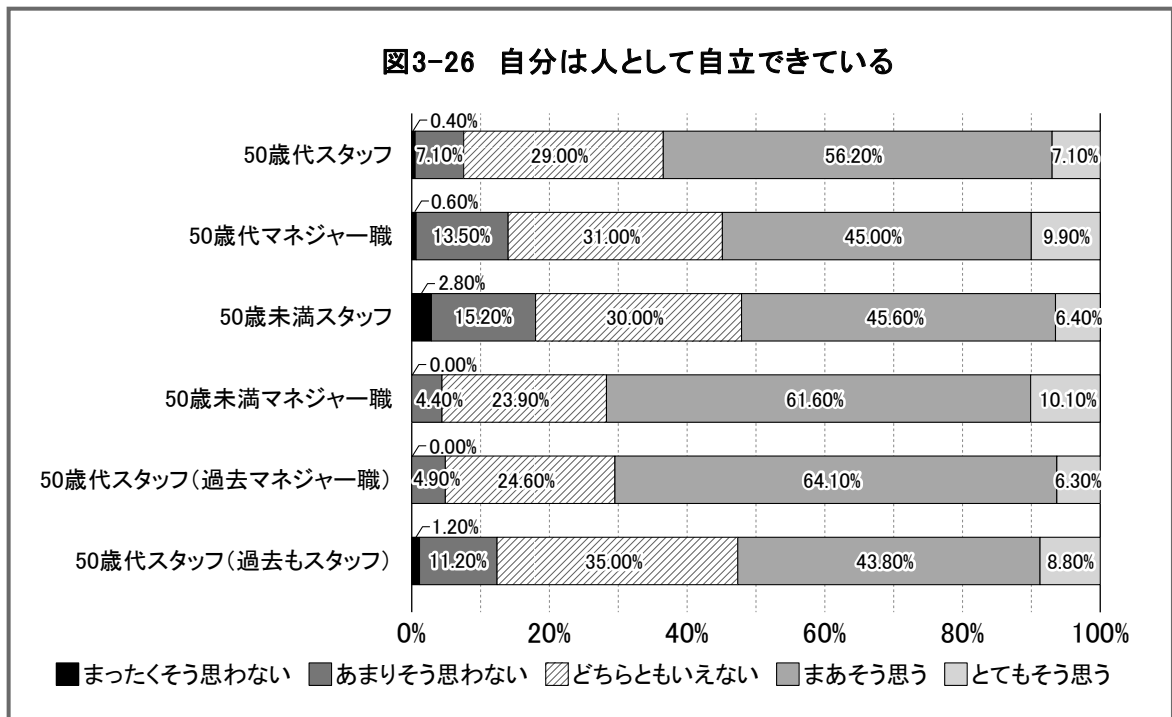


図 3-26 は「自分は人として自立できている」(問 19(2)) の回答分布である。肯定的な回答の割合は、50 歳代のスタッフが 63.3%、マネジャー職が 54.9%で、いずれも 2 人にひとり以上が自分は自立できていると考えているが、この項目ではスタッフの方が肯定的回答の割合が 8.4%高い。「どちらともいえない」の回答がスタッフの 29%、マネジャー職の 31%を占めているため、自立に関するイメージが明確でない者も一定割合で存在している。

50 歳代スタッフを過去のマネジャー職の経験の有無で比較してみると、過去マネジャー職に就いていた者の 70.4%、過去もスタッフだった者の 52.6%が自分は人として自立できていると考えており、17.8%の差がある。50 歳代のスタッフとマネジャー職ではスタッフの自立意識の方が高いが、50 歳代のスタッフに限って見てみると、過去にマネジャー職を経験したことがある者の方が自立意識が高い。

50 歳未満のスタッフとマネジャー職を見ると、50 歳代の回答傾向と逆転していることがわかる。50 歳未満の肯定的な回答の割合は、スタッフは 52%、マネジャー職は 71.7%で、マネジャー職の肯定的回答の方が約 20%高く、50 歳未満のマネジャー職では 10 人中 7 人以上が自分は自立できていると考えている。50 歳代のマネジャー職の肯定的回答は約 55%であり、50 歳未満のマネジャー職の肯定的回答の割合の方が 16%以上高い。50 歳未満のスタッフでも 2 人にひとり以上が自立意識を持っているが、50 歳未満のマネジャー職の肯定的回答の割合との差は大きい。50 歳未満のマネジャー職では 10 人中約 7 人が自分の生き方の選択を正

しいものだと考えており、この項目に表れている自立意識の高さは興味深い。

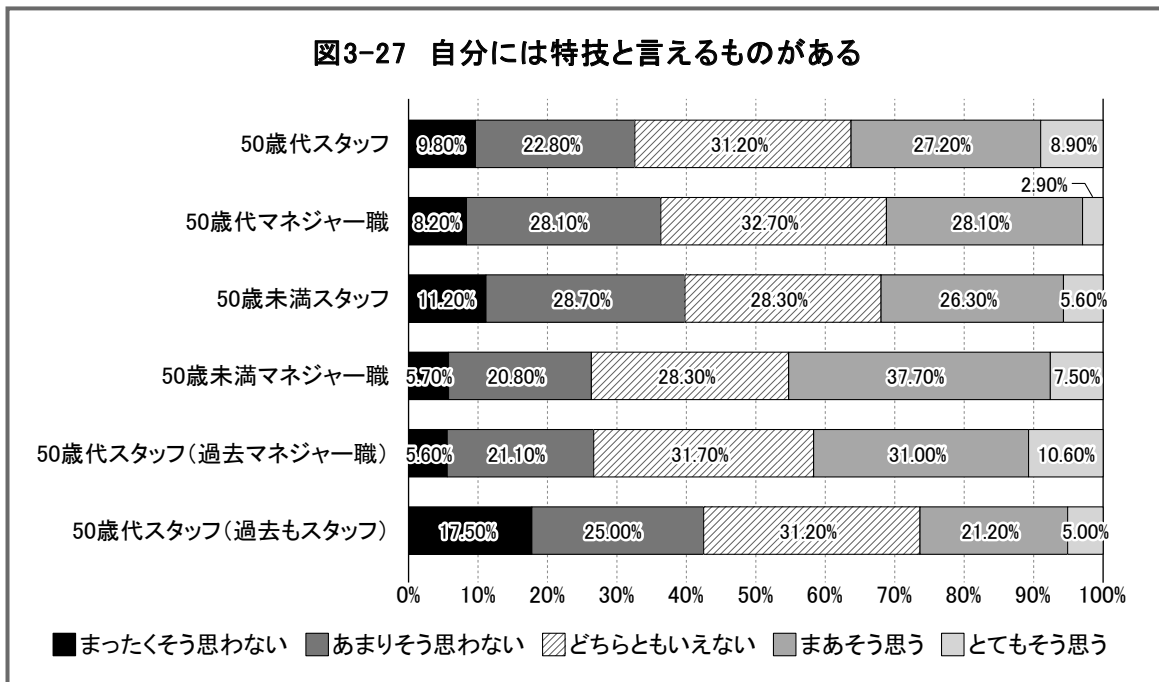


図3-27は「自分には特技と言えるものがある」(問19(5))の回答分布である。50歳代のスタッフとマネジャー職の回答傾向を見てみると、「まあそう思う」と「とてもそう思う」の合計割合は、スタッフが36.1%、マネジャー職が31%で、スタッフの方が5.1%高いものの、両者の肯定的回答の傾向に大きな差はない。逆に、「あまりそう思わない」と「まったくそう思わない」の否定的な回答の割合は、スタッフが32.6%、マネジャー職が36.3%で、スタッフ・マネジャー職共通して4人にひとり程度の割合で「自分には特技がない」と感じている。また、スタッフ・マネジャー職ともに3人にひとり弱が「どちらともいえない」と回答していることから、この項目では、スタッフとマネジャー職ともに意見が三分されていることがわかる。

50歳代スタッフに限定して過去のマネジャー職経験の有無で比較してみると、マネジャー職経験がある者の肯定的回答は41.6%、無い者は26.2%で、マネジャー職経験者の方が15.4%高いことがわかる。逆に、「あまりそう思わない」と「まったくそう思わない」の合計は、マネジャー職経験ありが26.7%であるのに対して、経験なしでは42.5%で、マネジャー職の経験がない50歳代の間で特技がないと感じる傾向がやや強くなっている。

50歳未満のスタッフとマネジャー職を見てみると、この項目に対する肯定的な回答は、スタッフが31.9%、マネジャー職では45.2%で、両者の間に13.3%の開きがある。50歳未満ではマネジャー職の間で自分の特技に関する意識が高めだが、この傾向は50歳代では見られない。

今の生き方のまとめ

上で報告した 50 歳代および 50 歳未満の今の生き方に関する結果の要点は以下のとおりである。

- 50 歳代の 2 人にひとり以上が正しい生き方を選択したと考えている。また、2 人にひとり以上が自分は自立できていると考えている。
- 50 歳未満のマネジャー職の 10 人中約 7 人が正しい生き方の選択をした、自分は自立できていると考えている。